能代市家庭教育通信　第１１号

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

2013 年 3 月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne Column

## 友　　情

能代市社会教育指導員　高畑　勉

運動部に所属する中学３年生の最大の夢、「全県総体出場」をかけた夏の予選がせまり、その激励会が、ここＯ市立Ｉ中学校体育館で、熱気に包まれながらおこなわれた。

激励会も終わりにさしかかろうとしたとき、突然、ステージ上にいた野球部主将のＡ君が、全校生徒に向かってこう呼びかけた。

「みなさん。ぼくたち３年生は、１年生のときから一所懸命練習して、この日を迎えました。しかし残念ながら、そのうち３人がユニフォームをもらえず、全校生からの激励を受けることができませんでした。

でも、ぼくたちは仲間です。いっしょに辛い練習をしてきた仲間です。ユニフォームはもらえなかったけれど、大事な、仲間です。

全校のみなさん！　その３人の名前を呼びますので、ぼくたちと同じように大きな拍手を送ってください。ぼくたちは、必ず全県総体へ出場します。そのときは、３人の仲間もいっしょに連れていきます！」

そうしてＡ君は３人の名前を次々に呼んだ。呼び終わるや否や、間髪入れずに体育館を揺るがすような大きな拍手がわきおこった。なかには、ハンカチを握りしめている女生徒もいた。期せずして、体育館に「野球部！　野球部！」という大コールがおこった。

３人は予期しない事態にびっくりしたものの、しっかりと胸をはって拍手に応えていた。この３人はベンチ入りこそできなかったが、実力的には僅差だった。練習も皆と共に一所懸命にがんばっていた。３人はこのとき、３年間の努力が報われたと思ったに違いない。きっと、ユニフォームをもらう以上の喜びを感じたに違いない。

主将のＡ君は、後輩たちに「厳しい練習に励まし合っていっしょに耐えた仲間は、ユニフォームを着ても着ていなくとも固い友情で結ばれている」と、ここでしっかりと伝えたのだ。そしてこの場にいた生徒たちは、汗と涙を流して野球の技術をみがくことも大事だが、互いに助け合い、思いやり合う友をつくることがもっと大事であることを、多感な青春時代に学んだことだろう。

この話を「Ｉ中学校ではあたりまえ」と語るＴ校長をみて、子どもたちを教育するということは、こういうことなんだと思った。「育てたように子は育つ」と言われるが、こう在りたいという志が人と人とのあいだで響き合って、人の心を育てていく。Ｔ校長の高い志のもとＩ中学校で学んだ生徒たちは、今後も良き美風をいろいろな場に吹き込み、その教えを脈々と伝えていくことだろう。

ちなみに、この３人のうちの１人は高校でも野球を続け、甲子園でユニフォーム姿を披露してくれた。努力は続けるもの。努力さえしていれば、人生の補欠になることはないのだ。

## おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

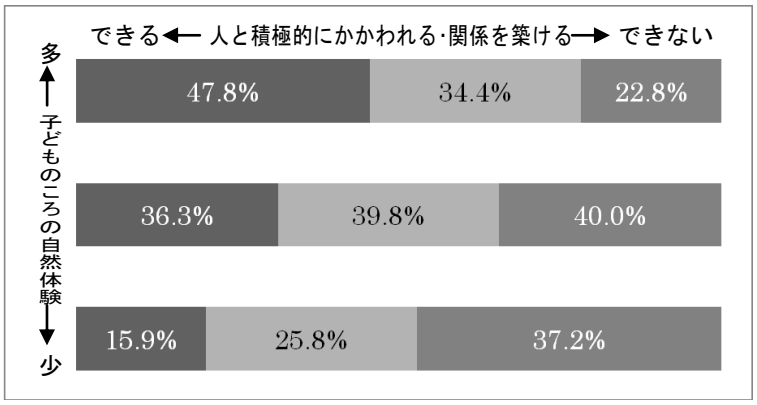
**『反抗期子育て乗り切りマニュアル』** 諸富 祥彦／監修　主婦の友社子育て取材班／編

思春期の子どもとどうつきあえばいいのか分からないときは、この１冊。アンケート結果をもとに反抗期のタイプを４分類し、それぞれの体験談を紹介しています。『「うちの子もしかして反抗期?」と思ったら読む本』も併せてどうぞ！

## データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかもしれません。

### 子どものころの自然体験と人間関係能力




(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書（平成 22 年度）より

前号に引き続き、子どものころの体験と大人になってからの行動や考え方との関係を調査した結果のうち、ちょっとおもしろいデータをご紹介します。

自然体験と人間関係を築く能力に何の関係が？ と思われるかもしれません。しかし、人の知的・情緒的成長にとって、実は自然体験がとても大きな位置を占めていることが、この調査からわかったのです。

自然いっぱいの能代！　どんな教材を準備するより、まずは野山に出かけましょう！

## ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

「自己中心」主義ではいけない。この場合、「己」ではなく「子」です。自分の子どもだけ囲って、我が子のことだけしかみていない育て方だと、子どもは伸びないですよ。子どもは、「社会の子ども」としてみなさい。（ 能上 正男　氏　「小学校入学にそなえて」より）

大きくなればなるほど、子どもには親友が必要になります。その親友をどうして選んだのかというと、「遊び」からです。子どもは遊びのなかで何を勉強しているのかというと、相手は今何を考えているのかなぁというのを、その子の表情やしぐさや、言葉で見抜く。そういうことを学んでいます。遊びの目的は、それひとつです。それができていないと、親友ができないんです。勉強も大事です。しかし、りっぱな社会人になるためには、遊びというものが、もっと大事なんです。（ 金田　昭三 氏　「小学校就学に備えて」より）

### 編集後記

１号からコラムを担当してくださっていた高畑先生が、３月いっぱいで能代市社会教育指導員を退任されます。先生のコラムの一番最初の読者として、毎回楽しみに、そして、ときに涙ぐみながら読ませていただきました。

本当にありがとうございました。これからもどうぞ私たちにご指導ください。

乳児は　肌を　はなすな
幼児は　手を　はなすな
少年は　目を　はなすな
青年は　心を　はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会　教育部生涯学習･スポーツ振興課　　〒018-3192　能代市二ツ井町字上台 1－1
TEL:0185-73-5285　／　FAX:0185-73-6459　／　E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

能代市家庭教育通信　第１２号

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

2013 年 8 月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne Column

## し　つ　け

能代市社会教育指導員　佐藤　清美

子育てにおける「しつけ」について考えてみたいと思います。

「しつけ」という言葉「躾」は、日本で考案された漢字（国字）で、峠、凪、畑などが仲間です。この漢字を分解すると「身」と「美」になり、「身だしなみを美しくする」と解釈されています。また「着物のしつけ」と結びついたもので、仮に縫いつけておくこと、転じて子どもが一人前になれるよう枠組みを与えることという解釈もあります。

どちらの解釈からも、「子どもがよりよい人生を送るために、社会人として必要なことを、幼児のうちに身に付けること」と理解できます。

この「しつけ」という言葉を聞くと、思い出すことがあります。

ずいぶん昔になりますが、スポーツ少年団（野球）の指導をしていたころのことです。子どもたちの「靴の脱ぎ方」が気になり、いつも注意し、指導するのですが、なかなか成果があがらず悩んでいました。

そんなある時、練習試合後の懇親会の会場で、相手チームの子どもたちの靴の脱ぎ方をみて、感心させられたのです。入り口はとても整然としていて気持ちの良いものでした。どのような指導をすればこうなるのか、早速相手チームの指導者に尋ねたところ、その方が言うには、「私も最初は、一生懸命指導したのです。でもなかなか良くはなりませんでした。いろいろ考えているうちに、子どもたちにとって、靴を脱いで揃えるということは、たいして重要なことではないのだ。揃えておくことが必要と思っているのは私なのだから、私がそれをやればよいのだという思いに至ったのです。それから、私は子どもたちが脱ぎ散らかした靴を、そのつど、自分の気が済むように揃えることにしたのです。はじめたころは、揃えても揃えても、脱ぎっぱなしでいる子どもたちに腹の立つこともありましたが、そのうち、靴を揃えることが一種の楽しみになってきたんですよ。どんなに散らかっていても、今日も気の済むように、きちんと並べてやるぞ……とね。するとどうでしょうか、私が楽しみながら靴を並べるようになったら、いつの間にか子どもたちも揃えるようになり、今ではこのとおりです」と。

この時、私は学んだのです。「やれ、やれ」ではついてこない。自分が楽しんでやるからこそ、他の人もやってみたい、あるいはやろうと思うのではないかということを。

孔子の言葉にも「これを楽しむに如かず」というのがありますが、子どもにやってもらいたいと思ったら、親がそれを楽しんで行う。これがしつけのコツではないか……。

子どもは「親をまねて育つ」……あいさつがしっかりできる子にしたいならば、まず親があいさつを楽しんで、しっかりする。……いかがでしょうか。

## おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

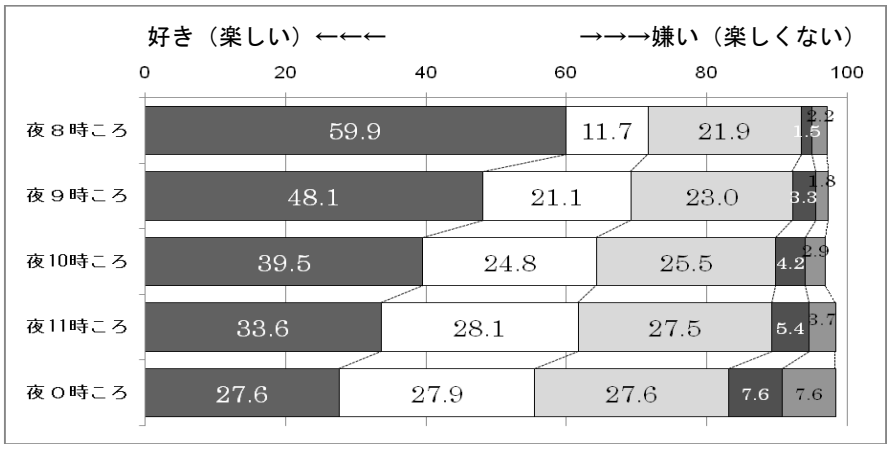
**『なんでも食べる子になる１歳、２歳からの偏食解消レシピ』／監修　太田百合子（実業之日本社）**

子どもが食べてくれないのは、実は「嫌い」以外の理由がありました。子どもの味覚の発達を知れば、「なんで食べてくれないの？」のモヤモヤをぬけて、発想がガラリと変わります。具体的な調理のコツやレシピのほか、好き嫌いのお悩みＱ＆Ａも掲載されています。

## データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

**「学校生活は好き(楽しい)？」と「ふだん何時に寝ているか？」の関係**




文部科学省委託　滋賀県家庭教育支援協議会『「子どもの生活リズム向上のための調査研究」報告書』（平成 19 年実施）より

左のデータは、滋賀県が国の委託を受け、生活習慣の現状とそれらが子どもに与える影響を調査したものです。

「寝る子は育つ」。あたりまえのことですが、毎日十分な睡眠をとることによって心身ともに充実し、物事に前向きに取り組める子どものようすが、この調査結果からうかがえます。

さて、あなたのお子さんは何時に寝ていますか？

## ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

食べたことのないものは、子どもにとって「嫌い」。何回か食べて「嫌い」だったとしても、「うちの子これが嫌いなのね」と決めつけないでください。味覚というのは、発達段階で変わっていくものです。何より大事なのは、嫌いだったものを食べられたときに、褒めることです。　（秋田栄養短期大学栄養学科講師　工藤友子 氏　「子どもの食の大切さ」より）

祖先が土から生まれたものをずっと食べてきて、遺伝してきたのが今の私たちの体。だから、昔の人が食べてこなかったものばかり食べて果たして体は健康か、それを考えてほしいのです。みんなの命は、祖先からいろんな命を受け継いできた命、そしてこれから産む赤ちゃんの命なのです。　（ＪＡ全農あきた営農支援課参与　泉　牧子 氏　「食卓の向こう側」より）

**「キッチン・キッズ」 レシピ集公開！**

能代市働く婦人の家では、年長児から小学３年生までを対象に１汁２菜とデザートを子どもたちだけで調理する「キッチン・キッズ」を年６回開催しています。そのレシピ集を市ホームページで公開中！　家庭でもぜひお試しください。

http://www.city.noshiro.akita.jp/c.html?seq=7058

乳児は　肌を　はなすな
幼児は　手を　はなすな
少年は　目を　はなすな
青年は　心を　はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

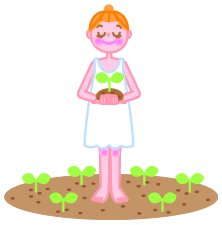
能代市教育委員会　教育部生涯学習・スポーツ振興課　　〒018-3192　能代市二ツ井町字上台 1－1

TEL:0185-73-5285　／　FAX:0185-73-6459　／　E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

能代市家庭教育通信　第１３号

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2013年12月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

## OnlyOne Column　子供はまねて大きくなる～親の生き方がお手本～

能代市社会教育指導員　佐藤　清美

「子どもは親の言う通りにはしないが、する通りにはする」という言葉があります。子育てにおいて、私たちはともすると、言葉で教えよう（言い聞かせよう）としがちですが、存外子どもは、聞いてくれなかったという経験は多いと思います。

だいぶ前に教育関係の機関誌に載っていた小学５年生の作文が今でも記憶に残っています。

「ほうきでチャンバラをして教室の蛍光灯のかさをわってしまった。先生に『これと同じ型の物はなかなか売っていないから困る』と叱られた。家に帰って母に言うとものすごく叱られた。『しょうがないやつやなぁ、おまえは。でも弁償せんといかん』と言って、ぼくを連れて買いに行った。二軒さがしてもない。疲れたし、暑くてかなわんのでぼくは『もうやめとこ。先生にもういっぺんあやまったらええがな』と言った。でも母は黙ったまま、また遠くまで行った。四軒目にやっと見つかった。学校へ持っていき、とりかえながら、母は何とかしてぼくの乱暴をやめさせようとしたのだとしみじみ考えた。」

（※少し長いので一部分のみ掲載しました。）

「しょうがないやつ」とひどく叱りながらも、すぐ子どもを連れて夏の日盛りの中を探し歩き、「もうやめとこ」と弱音を吐き、もういっぺん謝ることですまそうとする子どもを黙って引き立て、とうとう探しあてた母親。教室の電灯にかさを付けたとき、子どもはしみじみと母の心を感じた様子が書かれています。

母のおかげでかさを付けることができたという安堵感にとどまらず、喜びとともに“母は何とかしてぼくの乱暴をやめさせようとしたのだ”という反省にまで高まったのは、口で叱るだけでなく、学校にかけた迷惑は弁償するのだという考えを、母が行動で示したからです。くどくどと小言を繰り返すこともせず、弱音を吐く子どもを無言で連れて行って探し歩いた厳しい実践です。子どもは母親の厳しさの中に、自分への愛を感じ取ったのかもしれません。“人に迷惑をかけてはいけない、かけた迷惑は償わなければならない、何かを始めたら途中で弱音を吐くな、してはいけないことはするな”ということの、無言の教えといえるのではないでしょうか。母親は人間としての正しい行い（あるべき姿）を“して見せた”ということだと思います。

子育てに「正解」を求めることは難しいと考えますが、上記の例にひとつの方向性を見いだすことはできると思います。「子どもは見て育つ」……私たち親の生き方も大事ですね。

## おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

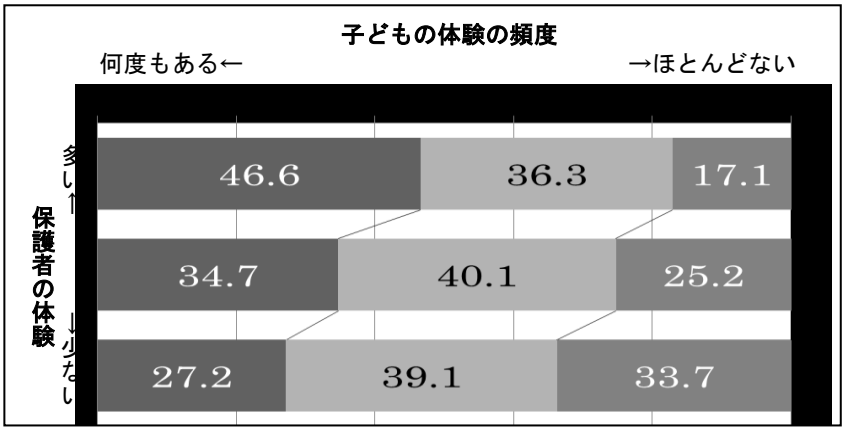
**『失敗する子は伸びる』／岸　英光 著（小学館）**

失敗した時こそ、成長のチャンス！？　「打たれ強い子」に育てるために、親がどうサポートすればいいかを、ポイントごとにわかりやすくまとめています。
わが子には失敗を恐れずに挑戦し、たとえ失敗しても自力で立ち上がれるような力をつけてほしい……そう願う方にオススメの１冊です。

## データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

**子どもとその保護者の体験の関係**
**～ 海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと ～**




(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書（平成 22 年度）より

今回は海や川での自然体験のデータをとりあげましたが、このほかにも多種多様なデータがあります。どれも一様に、子どものころたくさんの体験をした保護者ほど、その子どもも同様に多くの体験をしているという結果が出ています。

実体験は子どもの「生きる力」を育てます。「では、体験の少なかった私はどうすれば良いの？」……そんなときこそ、地域との関わりが重要になるのです。

## ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

私たちの時代にはあって、今の時代になくなってしまったもの、それは「うんざりするほどの時間」と「たっぷりとした自然との関わり」です。「自然」とは、土であり、緑であり、そして生き物。「自然」はだいじな「遊びのアイテム」であり、寒いときは寒さを、暑いときは暑さを共有しながら、彼らと共に生きることで「快の記憶」をたくさん体に蓄え、そのたくさんの想い出が、私たちを大人にしていったんです。

今の時代、子どもをひとりで外に出しておくことはできなくなってしまった。だから、それらにかわるものとして、「芸術」が必要なのです。

（人形劇団ひぽぽたあむ代表　永野むつみ 氏　「感動すること 育つこと ～幼児期編～」より）

**子育て情報満載！　「あきた子育て情報『いっしょにねっと。』」**

『いっしょにねっと。』のＷＥＢ上で開講している「子育て・親育ち講座」では、さまざまな分野の講師陣によるきめ細やかな情報提供をおこなっています。
ぜひ一度ご覧ください。スマートフォンにも対応しています。
http://common.pref.akita.lg.jp/kosodate/nurturing/course24/index.html

乳児は　肌を　はなすな
幼児は　手を　はなすな
少年は　目を　はなすな
青年は　心を　はなすな

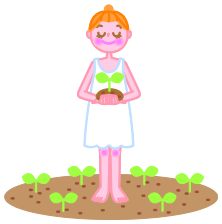
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会　教育部生涯学習･スポーツ振興課　　〒018-3192　能代市二ツ井町字上台 1－1
TEL:0185-73-5285　／　FAX:0185-73-6459　／　E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

能代市家庭教育通信　第１４号

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



今年度のテーマは「子育て」です

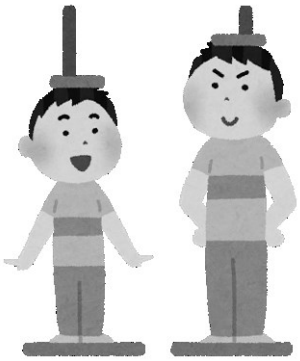
2014 年 3 月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne Column

## 比べること

能代市社会教育指導員　佐藤　清美



子育てにおける『比べること』について考えてみたいと思います。

子育ての中で、他の子どもと我が子を「比べること」は良くないと言われることが多いと思いますが、私は「比べること」は避けられないことだという認識を持っています。従って「比べ方」を工夫するという立場で今回はお話をしたいと思います。

実際のところ、子どもというのはそんなに上手に大人の思ったとおりの人間には育っていかないものです。

例えばものすごく怒りやすかったり、手がつけられないほどの腕白だったり、内向的だったり、お調子者だったり……という具合です。子どもも大人と同様、肯定的な部分と否定的な部分を併せ持っているのです。発達というのはこういったものですから、他の子の肯定的なところだけを見て比較されても子どもは困ってしまいます。子どもにすれば、そこは劣っているかもしれないが、私にだって「いいところはあるよ」と言いたくなるのはもっともですよね。こういった子どもの心境を綴った詩があります。

私のお母さんと父さんは、すぐに近所の子と私を比べます。
隣の家の子がリレーの選手になると「あなたもあのぐらい足が速かったらよかったのに……。」
斜め前の家の子がテストの成績がいいとわかると「あなたは、どうしてもっと勉強しないの」と言います。
私は料理が上手です。それなのに「あなたは人と比べて料理が上手ね」とはほめてくれません。
比べるなら、私のいいところだって比べてほしいと思います。
他の人のいいところだけ見て比べないでほしい。

子どもでもプライドはあります。ですから、他の人のいいところだけを見て比べられるのは、やっぱりいやなのです。でも、生きていく上で、他の人と比べられることは避けられません。こういった状況の中で、「比べること」を子育ての視点から見たとき、他の子の良いところも認めつつ（比べることではなく）我が子の良いところを認める（声に出して誉める）工夫がとても大事なことだと気づくのではないでしょうか。

個性を伸ばすということは、お互いの良いところを認めあうことが根っこにあって、初めて実現するものです。無い物ねだりではなく、あるものを伸ばすことのほうが、子どもも幸せ、親も幸せという状況を作ってくれるはずです。気になるところはすぐにわかりますが、良いところというものは、探さなければ気づかないことが多いものです。

探してあげましょう、子供さんの良いところを……。

## おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

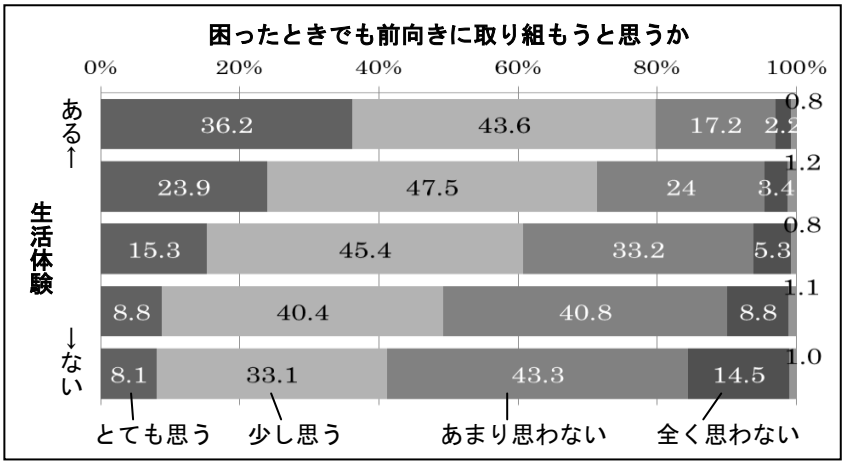
**『どならない子育て』／ 伊藤　徳馬 著（ディスカヴァー・トゥエンティワン）**

「子どもをほめましょう」「どならずに接しましょう」……頭ではわかっていても、そんなの無理！という方へ。子育てプログラム「コモンセンス・ペアレンティング」(CSP)に基づき、子どもに伝わりやすく、親の負担も減るしつけの方法を伝授します。せめて、どなる回数を減らせるように……。

## データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

**子どもの生活体験の頻度と困難に立ち向かう心の関係**




(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書（平成 22 年度）より

「生活体験」とは、料理やそうじ、ゴミひろい、下の子供のめんどうを見るなど、家庭生活の中でふつうにできる体験です。

このほか「困っている人がいたら手助けをする」「自分の思ったことをはっきり言う」など、自立的行動を示す項目全てにおいて相関関係がみられました。

生きる力を育む基盤が家庭にあることを改めて感じる調査結果です。

## ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

「子育ての四輪」は、家庭、学校、友だち、地域。

学校で集団生活と勉強を学び、家庭はやすらぎの場。友だちも、自分の子どもだけ良ければ良いという考え方は通用しません。全体を良くしなくては、自分の子どももよくならない。だから、人の子も、自分の子どもと同じように見て、悪いことは悪い、良いことは良いと伝えていく必要があります。そして、地域は、生活を学ぶには、とても良い場です。子ども達は、地域でいろいろなことを学ぶのです。

この四輪がうまくかみ合って回ると、子どもは、まず大丈夫です。

（ 能代市社会教育指導員　佐藤清美 氏　「意欲と支援～可能性は無限大～」より）

**『じじばばの孫かて講座』はじまります**

「イクメン」に続いて「育じい・育ばあ」「孫育て」なる言葉が脚光をあびています。能代市民のちょっと誇らしげな、とある一言「孫かでしねばやつかねぐなったったども、どっせばやったが、思い出し思い出しやってらった」に世相を感じ、能代市でも『じじばばの孫かて講座』を実施することになりました。

乳児は　肌を　はなすな
幼児は　手を　はなすな
少年は　目を　はなすな
青年は　心を　はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会　教育部生涯学習・スポーツ振興課　　〒018-3192　能代市二ツ井町字上台 1－1
TEL:0185-73-5285　／　FAX:0185-73-6459　／　E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

能代市家庭教育通信　第１５号

# Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

今年度のテーマは「子育て」です

2014 年 7 月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne Column

## ものの見方・感じ方　～怒ること・褒めること～

能代市社会教育指導員　佐藤　清美

子育てをしていると、子どもの短所ばかり気になってしまう傾向があることは、どなたも経験済みのことと思います。しかもついついそのことを指摘して、怒ってしまう……。そして、怒ってばかりいると落ち込んだり後悔したり……。

少年は山一つ越えた学校へ一人で通学しなければならなかった。部活で遅くなった帰路などは、どきっとするような寂しい山道もある。夏はジリジリ照りつける太陽に焼かれ、冬は容赦なくたたきつける吹雪にしゃがみ込むこともあった。雨が降ると、たちまち坂道が滝になる。「ああ、もっと学校が近ければ……。この山さえなければ……。」いつも山と道が恨めしかった。

やがて学校に、美しい少女が転校してきた。なんと彼女の家は近所ではないか。以来、しばしば一緒に通学するようになり、学校のこと、寂しい山道のことなども語りあう、親しい仲になっていった。

ある日、学校を出てしばらくすると、にわか雨におそわれた。なかなか止みそうにない。傘は少女の一本だけ。思いがけずに相合い傘になった少年は、家に着くまで密かに願った。”雨がやまないように””山がもっとさびしければ””家がもっと遠ければ””苦しめるもの”とあんなに恨んでいた道の遠さも、山の寂しさも、変わってはいないのに、今は少しも苦にならない。いやだったものが、楽しみになっているのだ。

子どもの短所だと思っていることも、見方や考え方次第では、長所に思えることもあります。要は見方を変えようという気持ちがあるかどうかにかかっているのです。

子どもにとって、欠点を注意されるより長所を褒められることのほうが、どれだけうれしいか。また、親のほうとしても、注意するよりは子どもを褒めた時のほうが、気持ちがいいに決まっています。人は、自分を嫌いな人を決して好きになりません。自分を嫌いな人に対しては、自分も嫌いになります。……対人心理学の基本原則（嫌悪の報復性）

なぜ注意を受け入れないか……自分は正しいと思っている、もしくは自分はがんばったが、原因が外にあり自分は悪くない。まずいと思っていたとしたら、もう本人はそのことに気づいているので心を痛めている。そこへ注意です。傷口に塩を塗るような行為を、受け入れられるでしょうか。怒るほうは、怒るなりの理由があるものですが、結局は怒りたいから怒るのです。そして残念ながらその効果は少ない。（もちろんしっかり怒らなければならないときもあります。）

子育てにおいては、叱って直すよりは、褒めて伸ばすほうが遙かに効果が上がることが立証されています。

親も気分がいい、子どもも嬉しい、そして効率的に、よりよい子育てができる……三方両得、こんな子育てを目指したいものです。

## おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

**『ネット依存症のことがよくわかる本』樋口　進／監修（講談社）**

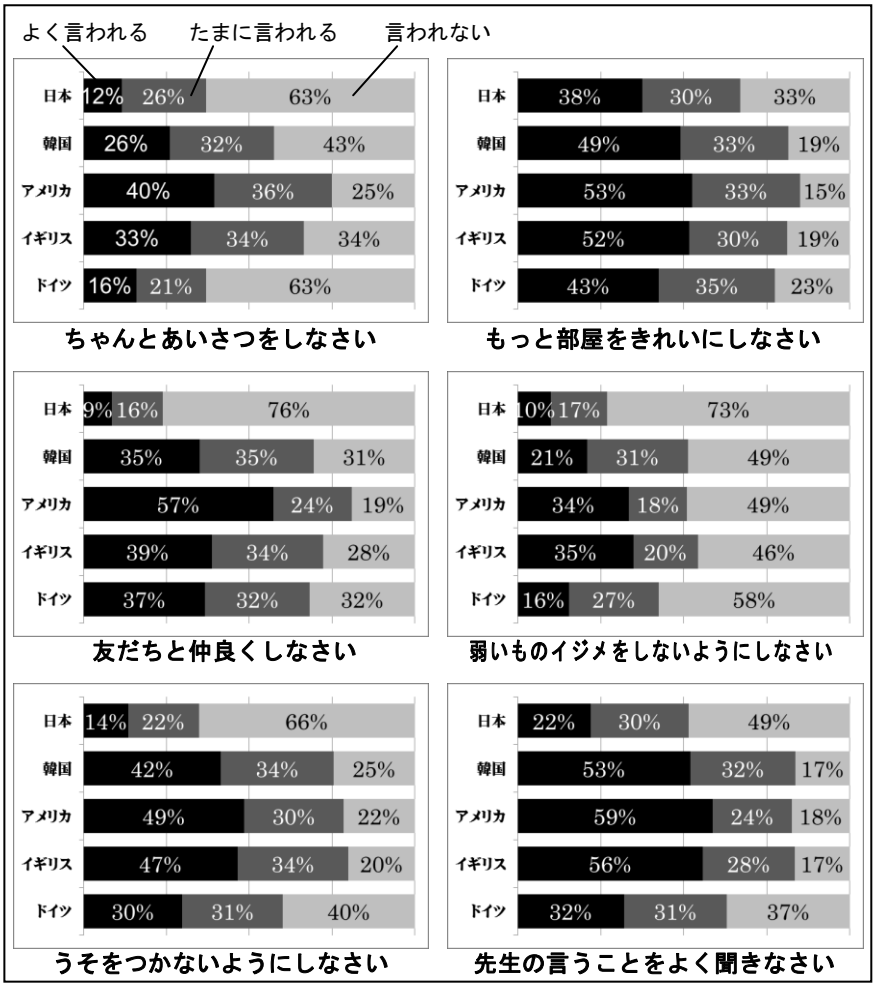
やめたくてもやめられない。そんな「ネット依存症」は、子どもにまでひろがる「心の病」です。ネット依存症にさせないための予防策や、ネットにハマる心理から治療法までを、イラストとともに解説します。依存度チェックテストも付いていますので、家族みんなでチェックしてみてください。

## データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

**拡大版**

### お父さんお母さんから言われること(頻度)　国際比較調査




子どもの体験活動研究会「子どもの体験活動等に関する国際比較調査」(1999 年) ※データをもとに集計

興味深いデータがあったので『データでみる家庭教育』、今回は拡大版でお届けします。

さて左のデータは、小学５年生と中学２年生の子どもを対象に実施した「お父さんお母さんから、次のようなことをどのくらい言われてますか？」という調査です。

言われなくともできているからなのか、言葉による教育ではないのか、あるいは家庭ではなく別のところで言われているからなのか。ちょっと驚くくらい、日本の家庭では規律や社会のルール、道徳に関して、子どもに口で繰り返し伝えていないことがデータから見てとれます。

また、早くから子どもを自立させるイメージの国々で、意外にも子どもに繰り返し言っていることにも驚きます。「自主性の尊重」と「放任」は違う。そんなことをと考えさせられる調査結果です。

**『子育て応援講座』開催！**

秋田県では「あきた子育て情報『いっしょにねっと。』」ＷＥＢ上で「子育て・親育ち講座」を実施していましたが、今年度からは好評の講師陣による公開講座も開催することになりました。テーマは「楽しく子育て！ 応援講座」です。

チェック！→→→→　http://common.pref.akita.lg.jp/kosodate/

乳児は　肌を　はなすな
幼児は　手を　はなすな
少年は　目を　はなすな
青年は　心を　はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会　教育部生涯学習・スポーツ振興課　　〒018-3192　能代市二ツ井町字上台 1－1
TEL:0185-73-5285　／　FAX:0185-73-6459　／　E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp